

関係者各位

平成 29 年 8 月 1 日

一般社団法人シンクパール

一般社団法人シンクパール活動報告会 開催報告



一般社団法人シンクパールは、平成 24 年 9 月 3 日の設立から 5 周年を迎え、新たな理事そして顧問の皆様とともに、国内外での活動や新たなプロジェクトのご報告を兼ねた活動報告会を開催しました。

大学生を中心とした、ミレニアル世代が当事者の意識を持ち、自らが影響力を持って社会に発信を行うプロジェクト『シンクパール・ソーシャル・カレッジ（TCS）』よりは、大学生インターンの和田吉平（慶應義塾大学総合政策学部 2 年）、千谷直史（上智大学神学部神学科 4 年）、牧村一穂（慶應義塾大学看護医療学部 1 年）が登壇し、活動の紹介をいたしました。

活動の第 1 弾として「全国の大学に子宮頸がん検診車を届け、健康教育の機会を提供したい！」をテーマにクラウドファンディングプロジェクトに挑戦しています（7 月 31 日、目標達成しました）。その活動の 1 つに、約 100 大学 228 名の現役大学生に「子宮頸がんのリテラシー調査」を実施、リテラシーの低さや、検診率の低さが明らかになりました。

今後は、「生理の悩みから解放されたい！」をテーマに、生理を女性だけの問題として捉えずに、男性も一緒にどういう意識を持てばいいか、課題の可視化と解決への糸口を探っていきたいと思います。また「女性の健康に配慮する企業に就職したい」のテーマでは、学生だけではなく、企業にご協力いただき働き方やその環境づくりに学生からの視点で提言を行っていききたいと発言をいたしました。



続いて、事務局より今秋よりスタートする女性の健康推進イニシアティブ（WHI）についてご説明を申し上げます。9月13日には、衆議院議員第一議員会館にて、企業経営者や人事戦略トップの皆様をお招きした発足シンポジウムを開催することも合わせて発表いたしました。

本プロジェクトのソリューションパートナーとなる、NPO 法人 GEWEL（ジュエル）代表理事 村松邦子氏は、自身が長年働き続けてきたなかで、同僚のワーキングマザーががんで亡くなった事が一番のショックな出来事だったと話しました。また、リーダー育成に従事するなかで、心や体の健康の大切さを感じていると述べ、今後はシンクパールと共に日本がもっと幸せになるように、日本がもっと元気になるように活動していきたいと語りました。

シンクパール社会人インターンで、2015 ミス・ユニバース東京代表の多田玉青氏は、ミス・ユニバースのファイナリストと言うと「美」や「体」に知識があるように思われがちだが、決して高いとは言えず、多田氏自身も「自分には関係のないこと」と感じていたと話しました。選考の過程で、シンクパールが提供する『女性からだ会議』を受けてみて、初めて子宮頸がんの予防の大切さを知ったので、正しい知識を得たり、何かあった時に頼る専門家がわかるのは、とても素晴らしいことだと語りました。



日本人の女性のたしなみや文化を学ぶ「ナデシコプログラム」にて『女性からだ会議』を受講した2017 ミス日本酒（Miss SAKE）グランプリの田中梨乃氏は、女性ならではの、健康トラブルやリスクから体を守り、健康で働き続けることや生きることの大切さや、乳がんや子宮頸がんの検診の必要性を痛感したと語りました。

また、2017 ミス日本酒（Miss SAKE）群馬代表の結城瞳ジーナ氏（立教大学現代心理心理学科在学中）は、自分を含む大学生はどのようにして自分にあったキャリアを築いていくのかについて考えている、と言い、その一方で自分の体に向き合いながらライフスタイルを考える機会はなかなか無かったと発言。受講を通して、自分が結婚や出産を経験する前に自分の健康と向き合う機会を得られたことがとても良かったと話しました。

2017 ミス日本酒（Miss SAKE）石川代表準グランプリの藤内秋桜氏（津田塾大学学芸部国際関係学科在学中）は、女性のみならず、男性も病気について理解し、ひいては将来を担う全ての命と女性が生き生きと過ごせる社会の実現を願う、というメッセージに深く共感したと話しました。健康問題の中でも特に



Think Pearl.

妊娠・出産の高齢化に伴う諸問題について出来るだけ早い段階でリテラシーを結びつける重要性を再確認することができたと発表しました。

2017 ミス日本酒（Miss SAKE）岐阜代表の原田理央氏は、自身が4年間住んでいたNYでは、キャリアを持ちながら自分のプライベートや自分の人生全体のバランスを大きく捉えて考えている多くの女性に出会ったと話しました。休日もしっかり確保し、かかりつけ医を持ち、健康の為にお金をしっかりと払う。健康維持の為に努力も多くしている姿は理想的だと感じたので、自分自身や友人、周囲の人たちを巻き込んで発信していきたいと語りました。



続いて、シンクパール顧問に就任した、超党派乳がん子宮頸がん検診促進議員連盟会長の野田聖子衆議院議員が登壇しました。

日本のがん対策は進んできているが、女性特有のがんへの取組みは抜け落ちている。今までは国会の中であまり議論されることのなかった「子宮頸がん、乳がん」をしっかりと検診を通じて減らしていこうという議員連盟ができたことは一歩前進だと語りました。野田氏自身、出産の際に子宮を摘出している経験から、子宮頸がんのリスクを考えたことがなかったと話し「しかし、だから

こそ取り組むべきであるし、がん経験者だけの組織というのは広がりがありません。女性のがんだからこそ、男性もパートナーとして伴走しなければならない、自分には関係ないと思っている人こそが自分の娘のため、孫のため、また姉妹のために、思いを持って当事者意識を持ってもらうことが大切。

とりわけ、子宮頸がんワクチンに関する対策に厚労省は消極的になっています。しかし、黙って見過ごしていると子宮頸がんで多くの女性が命を落とすことになる。だからこそ、もっと検診をアピールして、本当に検診が必要な世代の人たちに集中的に検診を受けてもう、会社の検診で必ず受けられる様にする等の検診率を上げる行動を積極的に取り組んでいかなければならない。国会でもこの国が元気になるために、女性の活躍が大切だと述べていますが、その活躍のブレーキをかけているのが、この国の女性の健康に対する無理解と努力不足です。これを機に、シンクパールとここにいる皆さんが力を合わせて、自分たちの命を大切に、人生そのものだと思って、皆さんの与えられた体を大切にしてください。そして、男性の皆さんはパートナーの女性を大切にしてください」と語りました。

次に、シンクパール顧問のがん教育推進議員連盟事務局長、武部新衆議院議員は「現代では2人に1人はがんになり、そして、がんは治らない病気ではなくなってきた。がんを予防することやがんと社会の共生をどのように行っていくのが大切。そして現在、全国でがん教育が始まっているが、病気について指導をしていく講師をどのように確保していくのが重要な課題だ」と述べ、医師をはじめとする専門家と実際に病気を経験した当事者本人が子ども達に伝えていくことが大切だと述べました。

同じく顧問の超党派乳がん子宮頸がん検診促進議員連盟事務局長の薬師寺みちよ参議院議員は「医療者として多くの看取りを経験してきた。そのなかで、どうしてもっと早く受診しなかったのだろう。という無念の思いを多くの方が持っていた」と述べ、だからこそ、検診が重要だということを今回のがん対策



Think Pearl.

基本法にも盛り込んだと話しました。厚生労働省内の対策として「がん」というと皆さん「厚生」と思いがちですが、実は「労働」の分野だとも考えているそうです。要望したいことは、的確な部署に的確な訴えを持っていかないと、たらい回しになってしまうといえます。今後は、野田氏や武部氏とダッグを組んで多くの方の要望が前進できるように努力すると意気込みを話されました。さらに「シンクパールの強みは若い方が多く参画していること。若い方が参画することで多くの女性や男性も興味を持つことになるので、若い世代間でより更なる発展を期待します」と語りました。



シンクパール立ち上げよりの医療チーム顧問、大阪大学大学院医学系研究科の小林忠男招聘教授は、以前の留学先のスウェーデンでは、検診は仕事を終えて午後8時からクリニックに検診を受けに行く事ができ、検診のハードルが非常に低いと語りました。また、教育体制も整っていて、日本でも適切な制度作りを行っていけば、もっとハードルの低い検診が可能なのではないか、それは必ず実現出来るはずだ、と話しました。

新たに顧問に就任した、東京大学医学部附属病院放射線科の中川 恵一准教授からは、がんというのは実は男性が多く、男性は3人に2人、女性は2人に1人、男性が多いのはタバコやお酒などの生活習慣に関わっているのだと述べました。ただ、54歳までは女性が多く、なかでも乳がんは女性ホルモンの影響を受けるため、出産を選ばない女性や高齢での出産が増えている現代で、それが原因の一つにもなっていると話しました。通常1人出産すると、妊娠から出産、授乳授乳の期間で少なくとも約2年間は、女性ホルモンが低下する時期がある。昔の人は5人出産したと仮定すると、20年間あまり生理が止まると推測されます。出産をしない場合は、閉経までずっと生理があるので、これこそが婦人科疾患や乳がんが増えている要因だと話しました。そして乳がんが一番多いのが東京、これは出生率が一番低いことに比例していると述べました。



また、感染型のがん（胃がん）は10年で3分の2に減少、肝臓がん半分に減っています。そのなかで、子宮頸がんだけは死亡率が上がっているとし、これは大きな問題だと話しました。現在、教育現場の協力を得て、子供達へのがん教育が始まっています。一方で、大人へのがん教育が取り残されているといい、がんというのはちょっとした知識があるかないかで大きく変わってくるといいます。今後は、シンクパールと一緒に企業の中でがん教育も行っていきたい、と話しました。



Think Pearl.

同じく顧問の内閣官房参与、元日本産婦人科学会理事長の吉村 泰典慶應義塾大学名誉教授より、現在の医療は治療医学と言って、病気になった時に治療をする医療だと話します。今後10年、20年後は予防医学に必ずパラダイムシフトが起こる、と説明。また、女性は初潮、妊娠、出産、閉経と、ダイナミックに動く女性ホルモン特有の変化を考えていかないといけない、と述べ、女性の健康力を維持するためには、がんになった時にがんの治療をするだけでなく、女性の健康力を維持していくことが大切だと話しました。そして、それは、思春期以前に女性に対して教育を行っていくことが非常に重要だと話し、シンクパールの活動が子宮頸がんのみならず、女性の健康力維持に貢献するはずだと話しました。



にこにこ一般財団法人代表理事の浅野敬子シンクパール顧問からは、にこにこ一般財団法人で取り組んでいる、世界の子どもの感染症を予防するための石鹸を配布する取り組みの紹介がありました。石鹸の中にメダルを仕込み、20年後夢を叶えた子ども達が集まり、また次の未来につないでいく活動をしていると話し、シンクパールでも、未来の命を守り、健やかに夢を育む社会に貢献していきたいと話しました。

最後に、宇宙飛行士の山崎直子顧問よりのビデオメッセージが紹介されました。11年間の訓練の中で検診を受けることが習慣になっていて、自分の体を知ることが活動の源にもなっていたと話しました。宇宙飛行士の訓練の9割は備え、つまり「何かがあったらどう対処するか」という訓練がほとんどだったと話しました。それは体に対しても同じだと話し、普通に過ごしているとなかなか自分の体まで思いがよばないが、事前に備えておく、検診をしていくことで、自身の現状を知り、それを予防し、安心して活動の源にしていけることができると説明。さらに山崎氏自身、出産や子宮頸がんの検診による早期発見経験もあり、様々なライフステージを経たなかで、いま改めて自分の体に耳をすませるということの大切さを感じている、と語りました。



第二部は、関係省庁よりのプレゼンテーションとして、外務省女性参画室の大槻広美首席事務官が登壇。女性が輝く社会の実現に向けて、女性参画推進室での一番大きな取り組みとして「国際女性会議WAW!」を毎年実施しており、女性の健康分野における途上国支援として、日本の母子手帳を海外に配布、さらに看護教育システムの開発や制度化など人材育成システムの強化を支援していると話しました。

厚生労働省健康局健康課女性の健康推進室の知念希和室長からは、厚生労働省では全ての国民が健康的に生涯を送れるような様々な取り組みを行っていて、女性という「性」に着目した際、各ライフステージに応じた施策が必要だと話しました。また最近では、女性の健康についての情報提供サイト「ヘルスケアラボ」を作成し、ライフステージに応じた情報を発信。生涯を通じて健康で明るく充実した日々を過ごすことを総合的に支援する「女性の健康週間（3月1日から8日）」も実施している、と紹介しました。

経済産業省商務情報政策局ヘルスケア産業課の高田真利絵係長は、健康経営の推進として経済産業省で推進している健康経営銘柄、健康経営優良法人について説明し、従業員の健康を企業としてしっかり投資をしていくことが大切だと述べました。健康経営の取り組みにおける今後の課題として、女性特有の健康問題の解決に高い関心が寄せられていると話しました。

厚生労働省健康局がん・疾病対策課安藤徳恵主査よりは、第3期がん対策推進基本計画の方向性の解説がありました。「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんの克服を目指す。」を目標とした、3つの柱を元に推進していくと話しました。

第二部の最後には、特別ゲストとして、元ラグビー日本代表で7人制ラグビーチーム『サムライセブン』の吉田義人監督から挨拶があり、活動報告会を通じて女性の力の大切さや大きさを感じた、と話しました。「現在、一般社団法人日本スポーツ教育アカデミーの代表理事を務めており、子供達を世界にチャレンジさせてあげたいとの願いから、両親、祖父母や社会全体で子供達を育てていくために活動している。それは健康でなければ成し遂げることはできない。自分も健康であるからこそ家族からたくさんの力をもらって幸せに過ごしている」と感想をいただきました。

一般社団法人シンクパールでは、今後も社会全体の課題として、健康教育と予防医療の推進に取り組み、次世代を担う若者を中心に行う活動を通して、全てのいのちが健康的で幸せな人生を送れるよう、関わる全ての人々の力を結集して活力のある未来に貢献していきます。



【団体概要】

和文名称：一般社団法人シンクパール

英文名称：Think Pearl Association

所在地：〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-8-1

代表理事：難波美智代

設立：平成 24 年 9 月 3 日

連絡先：電話：03-6369-8154 FAX：03-4333-0437 E-mail info@thinkpearl.jp

目的：当法人は、日本経済の明日を担う女性の労働力拡大と QOL の実現の支援を目指し、特に女性の健康問題として心がけたい「婦人科系検診」の啓発と促進、また少子高齢化にも深刻な影響を及ぼす「子宮頸がん」の未然予防、患者支援を目的とし、その目的に資するため、次の事業を行う。

- 1.婦人科検診受診促進を目的とした会員組織の運営
- 2.学術、文化、芸術、地域社会との振興を通じた健康意識の向上
- 3.健康全般に関わる経済活動および活性健康、疾患の社会教育に関する調査、研究
- 4.前各号に附帯または関連する一切の業務